

社会的判断力を育成する小学校社会科の授業構成

－「私たちの生活とごみ」を事例として－

朝 倉 淳

1 はじめに

「判断力」の育成は、もともと教育における中心的な目標であり、人間の本質と関わって、哲学や教育学、人間学などでも論じられてきた。¹⁾一方、変化が激しく未来予測の難しい今日の社会にあって、学校には新しい学力観に立った教育が求められている。その中で判断力の育成は、ますます重要な課題の一つになっている。判断力の育成は教育本来の中心的な課題であると同時に、きわめて今日的な課題でもある。

社会科教育に関する先行研究においては、社会的判断力育成や意思決定力育成の観点から、社会科の授業構成に価値的判断や実践的判断を組み入れることの重要性が指摘されている。²⁾そして、それを組み込んだ授業構成について、いくつかの提案がなされている。³⁾

しかし、そのような授業構成にあって、意思決定問題や価値的判断・実践的判断を求める問題は指導者からの提示の形をとっている。⁴⁾しかし、社会的判断力を育成するためには、子どもの判断は主体的なものでなければならない。⁵⁾そのためには、子ども自らが価値的判断・実践的判断を求める問題を発見し判断していくことが必要であろう。では、どのような授業構成を行えば、子どもがそのような問題を発見し判断していくようにすることができるのであろうか。

このような問題意識をもとに本研究では、社会的判断力育成の観点から、子どもが価値的判断や実践的判断を求める学習問題を発見し判断していくような小学校社会科の授業構成を明らかにしていきたい。

なお、このような目的を達成するために、本研究では次の3点について考察していく。

- ① 社会的判断力育成の意義と方法
- ② 子どもが価値的判断や実践的判断を求める学習問題を発見し判断していくような小学校社会科の授業構成
- ③ 授業構成に基づいて開発した第4学年「私たちの生活とごみ」の授業展開

2 社会的判断力育成の意義と方法

(1) 公民的資質の基礎としての社会的判断力

森分孝治は、社会的判断力を、「社会的事物や事象について一つの判断に到達する能力」と規定している。⁶⁾また、社会的事象に対する判断の構造モデルを示し、判断を個別的・一般的判断、記述的・説明的・評価的・規範的判断に類型化している。そして、知識の発展・成長の観点、態度・行動の基礎づくりの観点から、評価的・規範的判断を狭義の社会的判断力として重視する。⁷⁾小原友行は、社会的判断を「判断の形式」と「知識・能力」によって記述的・説明的・価値的・実践的判断に類型化し、学習の主体性を保証する観点から価値的・実践的判断を社会的判断力として重視する。⁸⁾

ここでは、森分の規定と類型化、小原の類型化にみられる記述をもとに、社会的判断力を狭義にとらえ価値的判断や実践的判断に到達する能力を中心に据える。そして、社会的判断力を「社会的事物や事象について、価値づけたり評価したりするための判断や、目的実現のための手段を選択したり決定したりする判断に到達する能力」と規定する。

この社会的判断力は、公民的資質の基礎となるものである。⁹⁾ なぜなら、社会科では、公民的資質として、民主的・平和的な社会の形成者として社会に対して主体的に働きかけていく実践的な能力と態度を重視すべきであり、そのような能力や態度には社会的判断力が不可欠だからである。社会的判断力は、狭義の「公民的資質」そのものであり、それを具体的に表現したものとも言える。

(2) 社会的判断力育成の方法

このような社会的判断力は、どうすれば育成することができるのであろうか。

社会的判断力は、子どもが、社会的事物や事象に対して問題意識を持ち社会的価値葛藤問題を発見して主体的に価値的判断や実践的判断をしていく学習を通して育成されると考えることができる。¹⁰⁾ なぜなら、実際にこのような判断をすることによって、判断するために必要な活動と過程を経験することができるからである。判断に必要な知識や概念などを導いたりそれをもとに思考したりして判断の過程をたどるためには、強い意志といろいろな能力が必要である。子ども自らが社会的価値葛藤問題を発見して主体的に判断する学習においては、強い意志といろいろな能力を育てるとともに、実際に判断することによって社会的判断力そのものを育成することができる。

なお、ここでいう社会的価値葛藤問題とは、ある社会的事物や事象のあり方が複数の価値によって問われているときに生じる問題である。¹¹⁾ 例えば、「国際連合での日本の役割のあり方」「空港建設などの開発と自然保護」「米の輸入自由化と日本の稲作農業」などには、明確な社会的価値葛藤問題が内在されている。

3 社会的判断力育成の授業構成

(1) 授業構成の視点

前述した方法に基づけば、どのように授業構成を行うことが必要であらうか。

社会的判断力を学習内容とし、子どもが実際に社会的判断をすること自体を学習するような授業構成をしなければならない。なぜなら、授業における判断が、その場の判断に終わることなく、社会的判断力の育成につながるようにするためであ

る。そのためには、次のような視点で授業構成を行い学習を展開することが必要である。

- ① 子どもの主体的な判断を生む教材構成をすること
- ② 学習の過程を判断の過程に沿ったものにする

以下、この2点について考察する。

(2) 主体的な判断を生む教材構成

素材とする社会的事物や事象には、社会的価値葛藤問題が内在されていることが必要である。なぜなら、社会的価値葛藤問題が内在しない社会的事物や事象、あるいは内在していてもそれが子どもたちに理解されず実感されないような社会的事物や事象からは、子どもたちは問題意識を持つことも問題を発見することもできないからである。

教材化にあたっては、導入を工夫することによって、子どもが問題意識を持ち問題を発見するようにしなければならない。素材に内在する社会的価値葛藤問題は社会的には問題であったとしても、必ずしもまだ子ども自身の問題にはなっていないからである。社会的価値葛藤問題が子どもの問題となったとき、主体的な判断が生まれるであらう。

では、どのようにすれば、社会的価値葛藤問題を子どもの問題にすることができるのであろうか。

素材とした社会的事物や事象の中から、社会的価値葛藤問題との関連の深いある部分を切り取り、子どもに追体験させることで可能である。具体的には次のようにする。

- ① ある状況場面を設定する。
- ② 子どもをその状況場面に立たせる。
- ③ 子ども自身を当事者にならせるか、実際の当事者に役割取得させるようにする。
- ④ 当事者として、その状況のその後の展開を追体験するような具体的な活動や体験をさせる。

この具体的な活動や体験を通して、子どもたちは直観的にいろいろな問題を発見するであらう。なぜなら、子どもたちは、設定された状況とその後の展開に当事者として関わることで、自分のこととして状況をとらえ、無意識のうちにいくつかの素朴な判断場面を通過していくからである。

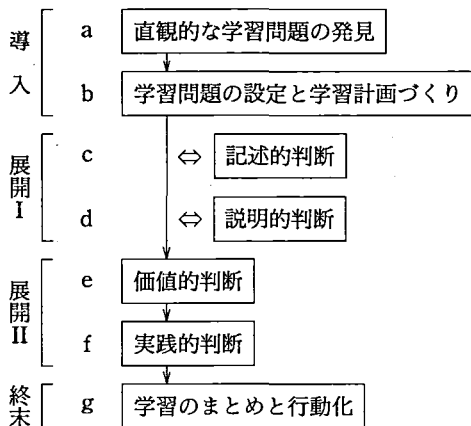


図1 社会的判断力を育成する学習過程モデル

(3) 判断の過程に沿った学習過程

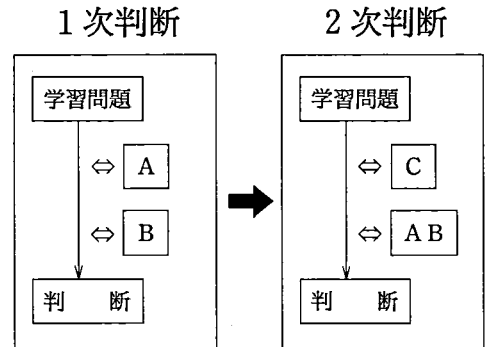
子どもの学習過程は社会的判断の過程に沿ったものである必要がある。¹²⁾なぜなら、記述的・説明的判断の裏付けのない判断、調べたり話し合ったりすることを通さず吟味されてない社会的判断は単なる思いつきによる選択となるからである。¹³⁾記述的判断や説明的判断が価値的判断や実践的判断の基礎、根拠となるような学習過程である必要がある。¹⁴⁾

判断の過程に沿った学習過程とは、図1のような過程である。

aでは、子どもたちは、社会的事物や事象との出会いを通して、状況や心情を共感的に理解し、直観的に問題を発見する。

bでは、aで子どもが個別に発見した問題を出し合い、いくつかの共通の学習問題にまとめる。そして、その学習問題を構造化して、学習の順序を決める。その際、価値的・実践的判断を求める学習問題を柱とし、それに対する判断に至るために、記述的・説明的判断が行われるような学習計画となる必要がある。

c dでは、子どもたちはそれぞれ、記述的判断、説明的判断を求める学習問題を解決する。このことは、価値的判断や実践的判断を求める学習問題を明確化することにつながる。e fでは、子どもたちはそれぞれ、価値的判断、実践的判断を求める学習問題に対して、判断をしていく。



A：既存の経験・知識・概念

B：調べたり試したりしてみたの新たな経験・知識・概念

C：他の人の判断

図2 個人内判断から集団的判断への過程

なお、c d e fでは、それぞれ図2のような過程を通して、判断を行う。

図2の1次判断では、子どもたちは、既存の知識・概念・経験(A)などに問いかけながら、学習問題に対して自分なりに予想したり、目標の実現の方法を考えたりする。次に問題解決に関わる情報を集めたり実際に試みたりして新たな経験・知識・概念(B)などを得て、具体的に考える。

2次判断では、1次判断での各自の判断(C)を出し合い、それをもとに話し合う。この話し合いを通して、各自の判断を交流したり吟味したりすることで、自分の判断について確信を持ったり、判断を修正したりする。¹⁵⁾

gでは、子どもたちは、新聞やレポートをつくったり劇にしたりして、学習をふりかえりまとめる。そして、作品を掲示したり発表したりする。現実の社会的な営みに参加し行動化していく。表現したり行動化したりすることによって、多様な見方・考え方にふれられるとともに、公民としての意識や新たな問題意識を生むことができる。

なお、この学習過程は、1単位時間を想定したものではない。また、機械的に1単元を想定したものでもない。ある社会的事物や事象に対して、学習問題が設定されそれが解決されるまでの数時間から20時間程度のまとまりの中で行われる1サイクルの学習過程である。¹⁶⁾

4 社会的判断力育成の授業展開 — 第4学年「私たちの生活とごみ」—

(1) 単元の目標

- ① 環境や資源の問題に対する取り組みや運動に関心を持ち，自らもその問題に取り組んでいこうとする。
- ② 私たちは毎日いろいろな種類のごみを多量に出していることを知る。
- ③ 三原市では，増えてきた大量の廃棄物を，焼却，埋め立て，再資源化という方法で処理していることを理解する。
- ④ 現在の生産体制や生活様式によっておこる廃棄物の増加，有害物質の発生などの問題が環境を破壊し，生存の危機をもたらしていることに気づき，どうすべきか考える。

(2) 単元構成

〈導入〉

第1次 私たちが出すごみの種類と量(3時間)

- 家庭から出たごみを持ち寄り，量や種類を調べ自分たちで処理する。

第2次 学習問題の設定と計画づくり(1時間)

- 学習問題を設定し計画をたてる。

〈展開I〉

第3次 ごみの収集と処理(5時間)

- ごみが，どのように収集，処理されているのかを調べ，清掃工場と不燃物処理工場を見学して，話し合う。

第4次 生活の移り変りとごみ(1時間)

- 家庭からでるごみが増えてきた背景について，考え，話し合う。

〈展開II〉

第5次 ごみの問題と私たちの生活(1時間)

- 増え続けるごみや環境・資源の問題と私たちの生活様式・生産体制の現状について，どう考えるか判断し，話し合う。

第6次 ごみを減らす(2時間)

- どのようにすればごみを減らすことができるか，自分なりに考えたり調べたりして判断する。
- 各自の判断を出し合い，話し合っ，自分の判断を見直す。

〈終末〉

第7次 まとめと新聞づくり(3時間)

- 問題に対する考えや解決方法などをつうたえる形で新聞や広告などをつくり，交流する。

(3) 単元構成の趣旨

単元の導入である第1次には，具体的な活動，体験的な活動として，子どもが家庭から1日分のごみを持ち寄りそれをもとに種類や量を調べたり処理したりする活動を位置付ける。

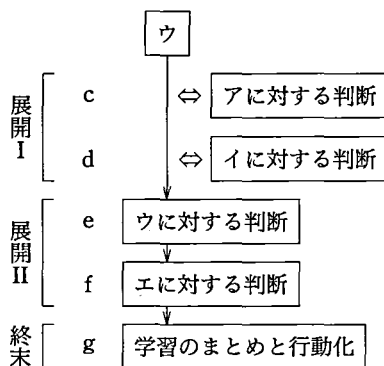
なぜなら，この活動では，ごみの種類や量について視覚的に調べることができるだけでなく，実際に分別したり処理したりすることでより具体的・体感的に理解することができるからである。また，自分の家から持ち寄ったごみであることが，当事者としての強い問題意識を生むからである。さらに，目の前のごみを処理する必要から，無意識のうちに自分たちが具体的に判断する場となり，実際の活動を通して子どもが単元の中心的な学習問題を子どもが直観的に発見することができるからである。

第2次で子どもが設定する学習問題は，次の四つである。

ア 私たちの家から毎日出されるごみはどのように処理されているのだろうか。

イ なぜ毎日こんなにたくさんのいろいろなごみが出るのだろうか。

ウ こんなにたくさんのいろいろなごみを出していいのだろうか。



アイウエは，〈導入〉第2次で設定する学習問題(本文中に記述)

図3 「ごみと私たちの生活」の学習計画

エ どうすれば家から出るごみを減らすことができるのか。

これらの学習問題をウエを柱として図3のように構造化した計画をたてる。

子どもたちは、ウに対する判断のために、第3次ではア、第4次ではイについて判断していく。そして、第5次ではウについて価値的判断をし、その判断に基づいて、第6次ではエについて実践

的判断をする。

第7次では、子どもたちは、第6次まで学習したことをもとに自分の意見を最終的な判断として新聞や広告という形でまとめ、発表したり掲示したりして交流する。交流を通して、実際に社会でなされている取り組みや運動にふれ関心を高めることができる。

(4) 授業展開案

表1 〈導入〉第1次（3時間）・第2次（1時間）

ね ら い	○発問 ●指示	児童の学習活動	指導上の留意点・資料
<ul style="list-style-type: none"> 身のまわりから出るごみに関心を持たせる。 ごみについての既有の知識・概念・経験をふりかえらせる。 調べ方を考えさせる。 次時への見通しを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 買物をして家に帰ったあとのようすを表現しよう。 ○ 中身はこれだけなのにこんなに使わないものがでてきましたね。こういったものは、どうなりますか。 ○ 私たちは、毎日ほかにどんなごみを出しているのでしょうか。 ○ 本当にそんなごみを出しているのでしょうか。どのくらい出しているのでしょうか。ほかにはないのでしょうか。 ○ どのようにしたら確かめられるのでしょうか。 ● それではみんなの家から1日分のごみを持ち寄ってみましょう。（プリント¹⁷⁾を使って説明する。） ○ 次の時間は、どのように学習しますか。 	<p>聞く。 児童の代表が教師とともに演技をする。他の児童は見る。 考える。発表する。 「捨てる。」 「ごみになる。」</p> <p>考える。発表する。 「空缶」「びん」 「ガラス」「紙」 「ティッシュ」「袋」 「おもちゃ」「食べ残し」など想像する。</p> <p>考える。発表する。 「家の人に聞く。」 「本で調べる。」 「自分で家のごみを調べる。」 「みんなでごみを持ってきて調べる。」</p> <p>聞く。 プリントを見ながら聞く。</p> <p>発表する。 「持ってきたごみで、1日にどんなごみをどれくらい出しているか調べよう。」</p>	<p>買物をして家に帰ってから商品の包装を解く場面を児童とともに演技する。 スーパーマーケットの買物袋といくつかの商品を準備しておく。 ここでは、家庭での生活から出るごみを中心に考えたり想像したりさせる。</p> <p>保護者には事前に本単元の目標、内容、ごみの収集について連絡し、協力を依頼しておく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習問題を確認させる。 市全体のごみの量をイメージさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この時間の学習問題は何か。 ● 家から持ってきたごみ袋をシートにならべてみましょう。 ● 目の前にあるのが40軒分の家から1日に出るごみです。三原市には約32000軒の家があります。三原市全体から出るごみは目の前のごみの約800倍です。想像してみましょう。 	<p>学習問題を発表する。 「私たちは、家から1日にどんなごみをどれくらい出しているのか。」 家から持ってきたごみの入った袋を青シートにならべる。</p> <p>聞く。 想像する。</p>	<p>学習の場は、体育館など普通教室より広いスペースのとれるところとする。机や椅子は用いず、中央に青シートを敷き、児童はその周りに座る。 事前に、後の資料として児童が各自持ち寄ったごみの重さを測っておく。</p>

<ul style="list-style-type: none"> どんなごみがあるか、前の時間の予想と比較させながら、毎日いろいろなごみが多量に出ていることに気づかせる。 ごみの処理方法について考えさせて、分別の必要性を感じさせる。 ごみの種類と量を実感させるとともに、ごみの中には、分別しにくいものや危険なもの、処理に困るものも含まれていることに気づかせる。 自分たちの家から出たごみの状況から、問題意識を持たせる。 次時への見通しを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 袋の中にはどんなごみが入っているのでしょうか。前の時間に予想したものが入っているでしょうか。 ● 袋の中のごみを青シートに出してみよう。 ○ 前の時間に予想したごみがありますか。 ○ 予想していなかったごみがありますか。 ○ 集めたごみをどうしますか。 ● 青シートのごみを段ボールに分別しましょう。 ○ 分別してみてもどんなことを感じましたか。 <div data-bbox="381 749 1012 929" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「自分たちだけでこんなにあるのだから、人口の多いところなどどうなっているのか。」 「こんなにたくさんのごみが毎日出ていて大丈夫なのか。」 「使えるものは使うとかして物を大事にしてごみを減らさないといけない。」 「分けられないものをどうすればいいのか。」 「電池や紙おむつはどうすればいいのか。」</p> </div> ○ 次の時間はどのように学習しますか。	<p>想像する。</p> <p>ごみ袋の中身を青シートに出す。</p> <p>シートの中央にできたごみの山を見て発表する。 「ある。」 「ある。」</p> <p>考える。発表する。 「ごみの収集に出す。」 「埋める。」 「再利用できるものは別にする。」 「燃えるものは燃やす。」 「まず、分ける。」</p> <p>分別する。 ・生ごみ ・紙類 ・缶 ・ビン ・プラスチック ・新聞 ・その他</p> <p>発表する。 「まだ食べられるものもあった。」 「ごみの中に再生すれば使えるものもあった。」</p> <p>「自分たちだけでこんなにあるのだから、人口の多いところなどどうなっているのか。」 「こんなにたくさんのごみが毎日出ていて大丈夫なのか。」 「使えるものは使うとかして物を大事にしてごみを減らさないといけない。」 「分けられないものをどうすればいいのか。」 「電池や紙おむつはどうすればいいのか。」</p> <p>発表する。 「分けたごみを処理しよう。」</p>	<p>前時に予想したごみを模造紙に記して児童の見えるところに掲示しておく。</p> <p>分別したごみを入れる段ボール箱を20箱程度準備しておく。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の進め方を確認させる。 ごみを処理する活動を通して、問題意識を持たせる。 各自の気づきや感想を記録させる。 次時への見通しを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この時間はどのように学習しますか。 ● グループごとに分けたごみを処理しましょう。後で気づきや感想を出し合しましょう。 <div data-bbox="381 1161 1012 1315" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>掘り埋める。 c 瓶や缶 リサイクルが可能なように細かく再分別する。 d その他のごみ どんなものがあるかを記録する。処理方法を調べ、さらに分別したり処理したりする。</p> </div> ○ ごみを実際に処理してみて、どんなことに気づいたりどんなことを感じたりしましたか。 ○ 次の時間はどのように学習しますか。	<p>発表する。 「分けたごみを処理しよう。」 ごみを処理する。 a 燃えるごみ 焼却炉で焼却する。 b 生ごみ 敷地内の適切なところに穴を</p> <p>各自、プリントに書く。</p> <p>発表する。 「書いたことをもとに気づきや感想を出し合おう。」</p>	<p>校庭など屋外で授業を始める。 グループごとに担当のごみを処理させる。処理が早くすんだグループはまだのところを手伝うようにさせる。</p> <p>教室に戻って、プリントに記録させる。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の進め方を確認させる。 交流を通して、問題意識を明確にし共有化を図る。 前時までの活動を通して生まれた問題意識をもとに 	<ul style="list-style-type: none"> ○ この時間はどのように学習しますか。 ● 気づきや感想を聞かせてください。 ○ いろいろ出てきました。これから、どうしましょうか。 	<p>発表する。 「書いたことをもとに気づきや感想を出し合おう。」 書いたことを発表する。</p> <p>発表する。 「同じようなものがあるので、出ているものをまとめる。」</p>	<p>前時のプリントを通して、事前に児童の気づきや感想をつかんでおく。</p>

<p>学習問題を設定させる。</p> <p>・ 学習計画をたてさせて学習の見通しを持たせるとともに、主体的に取り組む態度を育む。</p> <p>・ 次時への見通しを持たせる。</p>	<p>● 関係があるものをまとめていきましょう。</p> <p>「燃えるごみはすごい量で、燃やすのに時間がかかった。」 b 生ごみグループ 「燃やすと真っ黒い煙が出ていやな臭いがした。」 「生ごみの中にもアルミ箔やビニールが混ざっていた。」 c 瓶や缶のグループ 「瓶や缶の中に汁などが残っていた。」 d 其他のごみのグループ 「電池や蛍光灯などどうしたらいいか困るものがあつた。」 ＜問題となる感想＞ ア「私たちの家から毎日出されるごみはどのように処理されているのだろうか。」 イ「なぜ、毎日こんなにたくさんのいろいろなごみが出るのだろうか。」 ウ「こんなにたくさんのいろいろなごみを出していいのか。」 エ「どうすれば家から出るごみを減らすことができるのか。」 ＜問題以外の感想＞ 「処理するのに疲れた。」「ごみ処理の仕事もたいへんだ。」</p> <p>● どのように学習していくか計画をたてましょう。</p> <p>「できればごみの行方について見学したい。」 「最後に新聞か広告か劇で学習をまとめたい。」</p> <p>○ 次の時間はどのように学習しますか。</p>	<p>発表する。 ＜気づき＞ a 燃えるごみグループ 「私たちの家から毎日出されるごみはどのように処理されているのか。」 学習の進め方を話し合う。 「各自で予想をたてて→調べる→見学する→話し合う。」 各自、予想をたてて、調べる。</p> <p>学習問題について、話し合う。 ・ ごみは分別して決められた日に決められた場所に出すように</p> <p>発表する。 「私たちの家から毎日出されるごみはどのように処理されているのだろうか。」</p>	<p>子どもの発言をもとに板書を使って内容をまとめながら、学習問題に発展するものに焦点化していく。 まとめられた内容は次時からの学習のために模造紙に記録しておく。</p> <p>上記の内容と同様に学習計画も模造紙に記録しておく。</p>
---	---	---	--

表2 〈展開Ⅰ〉 第3次（5時間）・第4次（1時間）

ね ら い	○発問 ●指示	児童の学習活動	指導上の留意点・資料
<p>・ 本時の学習問題を確認させる。</p> <p>・ 学習の進め方を考えさせる。</p> <p>・ ごみがどのように処理されているかについて概要を理解させるとともに、よく分からないところがあることに気づかせる。</p> <p>・ 次時への見通しを持たせる。</p>	<p>○ この時間の学習問題は何ですか。</p> <p>○ どのようにして進めますか。</p> <p>● 各自、予想をたてて、調べましょう。</p> <p>● 考えたり調べたりしたことを発表しましょう。</p> <p>なっていること ・ ごみ置場のごみが市の収集車で集められること ・ 可燃物は清掃工場に運ばれること ・ 不燃物は不燃物処理工場に運ばれること ・ 清掃工場では焼却していること ・ 具体的なことなどよく分からないことがあること</p> <p>○ どのようにしたら、確かめられますか。</p> <p>● それでは、次の時間は見学の計画をたてましょう。</p>	<p>本時の学習問題を発表し、確認する。 「私たちの家から毎日出されるごみはどのように処理されているのか。」 学習の進め方を話し合う。 「各自で予想をたてて→調べる→見学する→話し合う。」 各自、予想をたてて、調べる。</p> <p>学習問題について、話し合う。 ・ ごみは分別して決められた日に決められた場所に出すように</p> <p>発表する。 「見学する。」 「聞き取りをする。」 聞く。</p>	<p>第1次の活動の写真など、記録を提示し、学習問題に対するイメージを鮮明にする。</p> <p>資料としては、教科書、副読本、家庭から持ち寄ったパンフレット、図書室の図書など。</p>
<p>・ 本時の学習の見通しを持たせる。</p> <p>・ 見学計画として必要な観点を考え</p>	<p>○ この時間はどのように学習しますか。</p> <p>○ 見学にいく前に、どんなことをしておけばいいでし</p>	<p>発表する。 「見学の計画をたてる。」 話し合う。 ・ 目的 ・ 行先 ・ 日程</p>	

させる。	<p>ようか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 見学の行先や持参物などについて、説明します。 ● 見学のめあてや内容、気をつけることなどをワークシートに書き込みましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・持参物 ・安全 ・見ること ・質問 ・予想 ・その他 <p>書く。</p> <p>書き込む。</p>	
・ ゴミがどのように処理されるのか具体的に確かめさせる。	<p>清掃工場の見学をする。</p> <p>不燃物処理工場の見学をする。</p>		<p>実際の見学時間として2単位時間程度をあてる。</p>
<p>・ 見学して感じたことや分かったこと疑問に思ったことを交流させて、ゴミの処理についてまとめさせる。</p>	<p>○ 見学して、感じたこと、分かったこと、疑問に思ったことを発表しましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><分かったこと></p> <p>焼却や処理の過程</p> <p>自動化されているところと手作業のところ</p> <p>いろいろな工夫</p> <p>働く人の努力、願い、問題</p> <p>近隣の市町村との協力の様子</p> <p>計画的な活動がなされていること など</p> <p><疑問に思ったこと></p> <p>ゴミが増え続けたら清掃工場はどうなるのか。</p> <p>埋め立てる場所が足らなくなるのか。</p> <p>煙や灰に含まれる毒はどうなるのか。 など</p> </div>	<p>発表する。</p> <p><感じたこと></p> <p>工場の大きさ</p> <p>運び込まれるゴミの多さ など</p>	<p>見学時の写真やVTRを活用する。</p>
<p>・ 次時への見通しを持たせる。</p>	<p>○ 次の時間はどのように学習しますか。</p>	<p>発表する。</p> <p>「なぜ毎日こんなにたくさんのいろいろなゴミが出るのか。」</p>	
<p>・ 本時の学習問題を確認させる。</p> <p>・ ゴミの増加の背景について理解させる。</p> <p>・ 次時への見通しを持たせる。</p>	<p>○ この時間の学習問題は、何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各自、予想をたてて調べてみましょう。 ● 考えたり調べたりしたことを話し合ひましょう。 <p>○ 次の時間はどのように学習しますか。</p>	<p>本時の学習問題を発表し、確認する。</p> <p>「なぜ毎日こんなにたくさんのいろいろなゴミが出るのか。」</p> <p>各自、考えたり調べたりする。</p> <p>発表して話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買いすぎる。 ・ 物が多すぎる。 ・ 袋とかカバーが多すぎる。 ・ 使い捨てになっている。 ・ 容器や包むものが変わった。 <p>発表する。</p> <p>「こんなにたくさんのいろいろなゴミを出していいのか。」</p>	<p>ゴミの収集が始まるまでの各家庭でのゴミ処理の様子、生産や消費に対する考えなどの変化を示す資料を準備する。</p>

表3 〈展開II〉第5次（1時間）・第6次（2時間）

ね ら い	○発問 ●指示	児童の学習活動	指導上の留意点・資料
<p>・ 本時の学習問題を確認させる。</p> <p>・ ゴミの現状について自分なりに価値的判断をさせる。各自の判断を出し合せて、吟味させる。</p> <p>・ ゴミが増え続け</p>	<p>○ この時間の学習問題は、何でしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 各自、考えたり調べたりしましょう。 ● 自分の考えとその理由を出し合って、質問や意見を出しましょう。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><しかたない> よくはないが減らすことはできないから。</p> <p><いけない> 資源・環境などで問題がある。現在および将来の命に関わるから。</p> </div> <p>○ もしこのままゴミが増え</p>	<p>本時の学習問題を発表し、確認する。</p> <p>「こんなにたくさんのいろいろなゴミを出していいのか。」</p> <p>各自、考えたり調べたりして、判断する。</p> <p>各自の判断を出し合い、その理由について話し合う。</p> <p><いい> 特に問題はないから。自分は困らないから。</p> <p><いい> 自分には減らすことはできないから。</p> <p><いい> 資源・環境などで問題がある。現在および将来の命に関わるから。</p> <p>発表する。</p>	<p>参考文献</p> <p>ジョン・シーモア、ハーバートメジラード 著 田中英作訳『地球にやさしい生活術』TBSブリタニカ、1990。</p> <p>自治体学校清掃分科会運営委員会編『現場からゴミを減らす』自治体研究社、1990。</p> <p>石川禎昭『ゴミ教養学』中央法規出版、1989。他。</p>

たときの問題点に気づかせる。	るとどんなことが予想されますか。	・資源の枯渇 ・環境破壊 ・環境汚染 ・食糧危機 など	
・ 本時の学習問題を確認させる。 ・ ごみを減らす方法について自分なりに実践的判断をさせる。	○ この時間の学習問題は、何でしょうか。 ● 各自で、考えたり調べたりして、いい方法をよく分かるようにまとめましょう。 ○ 次の時間は、どのように学習しますか。	本時の学習問題を発表する。 「どうすれば家から出るごみを減らすことができるのか。」 各自、考えたり調べたりして判断したことを、提案できる形にまとめ発表する。 「それぞれの考えを発表しよう。」	発表しやすいように画用紙や模造紙などにまとめたり作文にしたりするようにする。
・ 本時の学習の進め方を確認させる。 ・ ごみを減らす方法について、各自の判断を出し合い吟味させる。	○ この時間はどのように学習しますか。 ● それぞれの考えを、発表しましょう。 ＜商店＞包装の簡素化 容器・トレーなどの回収 ＜行政＞ごみの有料化 広報 ＜生産者＞省資源・省エネルギーへの価値観の変容 ＜学校＞実践の場・教育 ＜自分＞何にどう関わっているか。関わっていくか。 ＜新たな疑問＞	発表し確認する。 「どうすれば家からでるごみを減らすことができるか発表しよう。」 発表して話し合う。 ＜家庭＞消費生活の見直し リサイクル 生ごみの自家処理	なぜその方法で減らすことができると考えたのか理由をはっきりとさせる。 現在行われている活動についても、自分の経験や意見を出し合って、成果と問題点を考えさせる。

表4 ＜終末＞ 第7次（3時間）

ね ら い	○発問 ●指示	児童の学習活動	指導上の留意点・資料
・ 表現することを通して、知識や概念を整理するとともに、態度形成、行動化へつながるようにする。	● 私たちの生活とごみをテーマにした新聞などを作って、自分の考えを伝えよう。	各自、学習したことや自分の考えなどを多くの人にうったえる形で表現する。 ・新聞 ・ポスター ・パンフレット ・作文	2時間分の活動とする。 掲示して、各自が表現したものをお互いに見ることができるようにする。
・ 自己評価させるとともに、これからの学習の意欲を持たせる。	● 「ごみと私たちの生活」の学習について、ワークシートに記入しましょう。	ワークシートへの記入をする。 ・判断の過程、方法、結果 など	記入されたことは集計・分析して、指導と評価の材料とする。

5 おわりに

本研究では、社会的判断力育成についてを意義と方法、社会的判断力育成の授業構成、単元「私たちの生活とごみ」¹⁸⁾の授業展開について考察してきた。しかし、一つの単元を事例にして授業展開したものにはすぎず、方法、授業構成、授業展開も現時点で到達しているものにすぎない。今後は、別の単元で授業展開案を作成し実践することを通して方法、授業構成の有効性を考察するとともに、その吟味、修正を行っていきたい。

＜注＞

- 1) 例えばM.J. ランゲフェルドは、教育の目標を「一個の人格として自ら価値判断を下すことが出来、しかもそれを実生活において実行する人」を育てることと述べている。M.J. ランゲフェルド 岡田渥美・和田修二監訳『教育と人間の省察』玉川大学出版部、1982, pp. 18-19, 参照。

る人」を育てることと述べている。M.J. ランゲフェルド 岡田渥美・和田修二監訳『教育と人間の省察』玉川大学出版部、1982, pp. 18-19, 参照。

- 2) 森分孝治『現代社会科授業理論』明治図書、1984。小原友行「学習の主体性」全国社会科教育学会『社会科教育論叢』第35集、1988。今谷順重『新しい問題解決学習の提唱』ぎょうせい、1988。他。
- 3) 吉村政宣「価値論に基づく意思決定能力育成の研究」日本社会科教育研究会『社会科研究』第33号、1985。岡崎誠司「意思決定能力を育成する未来志向の授業構成」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第5号、1993。他。
- 4) 吉田正生「論理整合的・価値整合的意決定能力育成のための社会科授業モデルとその実践」

- 日本社会科教育研究会『社会科研究』第34号, 1986。
- 5) 小原友行, 前掲論文。
- 6) 森分孝治「知識・理解力と社会的判断力との関連」『社会科教育』明治図書, No101, 1973。
- 7) 森分孝治, 前掲書。
- 8) 小原友行, 前掲論文。
- 9) 溝上泰「価値の主體的選択と社会科教育」『社会科教育』明治図書, No101, 1973 p.9参照。
- 10) 社会科教育連盟編『新しい社会科の創造』中教出版, 1979, p.16, 参照。片川英次「歴史的背景の理解と社会的判断力の指導知識—日本の工業の発達を例に」『社会科教育』明治図書, No101, 1973, p.89, 参照。
- 11) 見田宗介『価値意識の理論』弘文堂, 1982, pp.122-126 参照。小原友行, 前掲論文, p.81, 参照。
- 12) 小原友行, 前掲論文, p.73, 参照。
- 13) 上田吉一『自己実現の教育』黎明書房, 1983, p.14, 参照。見田宗介, 前掲書, pp.70-71, 参照。
- 14) 森分孝治『現代社会科授業理論』明治図書, 1984, pp.88-104, 参照。
- 15) 田島薫「社会的判断力をねりあげる授業方法」『社会科教育』明治図書, No101, 1973, pp.54-55, 参照。
- 16) 片川英次, 前掲論文, p.90, 参照。
- 17) 資料1 ごみの収集について子どもに配布したプリント (自作)
- 18) 本授業展開は1991年1月25日に, 広島大学附属三原小学校において, 4年生を対象に行われた公開授業研究の結果に基づいて, 修正を加えたものである。本単元では, 廃棄物の問題を, 行政による単なる収集・処理の問題としてではなく, 私たちの生活様式, 地球規模の環境, 資源の問題としてとらえさせるようにする。小学校社会科の単元で廃棄物の問題を扱ったものとして, 有田和正・霜田一敏『市や町のしごと』国土社, 1973。高山芳治「小学校社会科単元『ごみと生活』の学習書試案(1)」『岡山大学教育学部研究集録』第93号, 1993。他, 参照。

資料1 ごみの収集について子どもに配布するプリント (一部)

1. ごみを集める日時 ○月 ○日 (月) 20:00から ○月 ○日 (火) 20:00まで
○月 ○日 (火) 20:00にごみをふくろに入れて用意し, 次の日の ○月 ○日 (水) に学校に持ってきます。
2. ごみを集める方法
 - ① 自分の家で家族が出す1日分のごみを集めます。今日、○月○日の20:00に家のごみばこを全部、からにしておきます。そして、○月○日の20:00に家のごみばこに入っているごみを全部集めて、家にあるごみぶくろに入れて○月○日に学校に持ってきます。
 - ② 生ごみ(料理のときに出るごみや食べ残しなど、台所から出るごみ)だけは学校で渡す青いビニールぶくろにまとめて入れて、口をかたくしばっておきます。そして、その他のごみといっしょにご家にある別の大きいごみぶくろの中に入れます。生ごみの中には、ビニールや、アルミはくなどがまざらないようにしましょう。そのほかのごみは、全部一緒にしておきます。
 - ③ 集めるごみは家から出る1日分のごみです。新聞などまとめているものについても、1日分を入れましょう。たまたま、その日、かん、びんなどのごみががひとつもなかったり、きよくたんに多かったりすることがあるかもしれません。家の人と相談をしましょう。
 - ④ ごみを集めたり、ふくろに入れたりするのは、できるだけ自分でしましょう。このプリントは家の人にも見せて、ごみを集めるときや台所のごみをじゅんぴするときなど、むずかしいところは家の人にも手伝っていただきましょう。

(広島大学附属三原小学校)